

# 障害のある人を対象としたオープン・カレッジの実施

— オープン・カレッジ in 美作大学・きんちやい みまさかれっじ —

薬師寺明子 ・ 河本茂美 ・ 柴崎晃司 ・ 水木祥子

(おかやま発達障害者支援センター オープン・カレッジ in 美作大学のみ)

## I. はじめに

### 1. オープン・カレッジとは

2019 年度(令和元年度)学校基本調査(確定値)によると、大学・短大進学率は 58.1%と過去最高となり、高等専門学校及び専門学校も含めると、82.8%で過去最高となった。高校を卒業後に 8 割を超える人が高等教育機関に進学している。また、多くの人々が市民講座や老人大学、カルチャーセンター等で生涯学習、生涯教育等として学ぶ機会を得ている。しかし、知的障害のある人の場合は特別支援学校卒業後、大学等の高等教育を受ける機会がないのが現状である。学習機会の少ない知的障害者を大学に招き、講義を受けてもらうという取り組みのことをオープン・カレッジという。

オープン・カレッジは 1995 年、東京学芸大学において、大学教員や付属養護学校(現在は特別支援学校)、多摩地域の養護学校教員等で構成している「養護学校進路指導研究会」が、特別支援学校を卒業した知的障害のある人を対象に大学公開講座「自分を知り、社会を学ぶ」を開講したのが始まりである。1998 年に大阪府立大学安藤研究室がオープン・カレッジとして活動を始め、活動に賛同した大学関係者を中心に広がりを見せ、1999 年度には武庫川女子大学、2000 年度には桃山学院大学が開講した。その後、宮城大、徳島大等でも開講し全国的に広がった<sup>1)2)</sup>。近県では、島根大学が 2007 年に学生らが中心となりオープンカレッジ実行委員会を立ち上げ、2008 年 10 月から2年を1期とする「知的に障害のある人のオープンカレッジ in 松江」(毎年度秋・春2日間ずつ開講)を開講している<sup>3)</sup>。

オープン・カレッジには三つの理念①知的障害者の人権(教育を受ける権利)の保障、②知的障害者の変化(発達)の可能性の保障、③地域社会に対する大学の貢献がある。オープン・カレッジは知的障害のある人に、ただ学ぶ場を提供するだけでなく、「教育権」や「発達保障」について実践を通して実現しようとする取り組みである。

### 2. 本報告について

本報告は、発達障害者支援センターと協働で実施している、発達障害のある高校生を対象とした就労準備支援「オープン・カレッジ in 美作大学」及び、学生が実施主体となって実施している知的障害のある人を対象としたオープン・カレッジ「きんちやい みまさかれっじ」についての実践内容である。

## II. オープン・カレッジ in 美作大学

### 1. 実施背景

近年、普通高校に進学した知的障害を伴わない発達障害のある生徒の教育上の支援、特に進路選択支援については、多くの課題がある。おかやま発達障害者支援センター県北支所(以下;支援センター)においても、普通高校等に在籍する生徒からの相談が、多く寄せられている。当事者の「自己理解」や家族の理解が進路選択においては必要であるが、その理解を進めていく上で困難さがあるようである。

そこで、この現状の課題解決にむけ、2013 年度から薬師寺研究室と支援センターが協働し、発達障害のある人を対象としたオープン・カレッジを企画・実施している。なお、2013 年度は試行的な実施、実践報告として地域生活科学研究所を主催とするシンポジウムを実施することで、地域活動を開示し、2014 年度より本格的な実施となった。2015

年度より、地域生活科学研究所からの助成を得て毎年実施している。また、平成 2017 年度より、大学内での実施だけではなく、高等学校に出向いて「出前講座」を実施している。

## 2. 実施内容

1) 企画：筆者及び支援センタースタッフ

2) 実施日：2019 年 6 月 8 日(土)15 日(土)

3) 実践者：

①全体の運営：筆者及び支援センタースタッフ

②参加者へのサポーター及びスタッフ：薬師寺研究室ゼミ生(3 年生 4 名・4 年生 5 名)。

③講義の際の講師：看護師資格を持つ大学教員、キャリアコンサルタント資格を持つ大学職員

④模擬作業：大学附属図書館職員・事務作業提供

4) 参加者：普通高校に通う発達障害のある人で、就労にむけた準備に意欲があり、学校に安定して通うことができている状態にある 7 名。参加にあたっては、所属校の担任、特別支援教育コーディネーター、相談室の教諭が、参加者・保護者と相談の上、申し込む形式をとった。また、①参加者・保護者にプログラム概要の説明、②保護者や所属校の担任等から参加者の配慮点の聞き取り、③参加者同士のグルーピングの検討、④参加者と学生サポーターのマッチング等を目的に、支援センターが所属校への事前訪問を実施した。

5) 倫理的配慮：プログラムの評価研究に関する参加者への同意及び個人情報の記載等については、事前訪問時に参加者に説明を行い、書面にて同意を得た。

## 3. 実施の流れ

1) プログラム実施前：支援センターが参加者の所属校に事前訪問を行い、得られた配慮点等の情報をもとに運営スタッフ全員で企画会議にて共有。

2) プログラム期間：1 クール 2 日間とし、土曜日を利用し、1 回 5 時間程度(表 1)。

表 1 当日のスケジュール

1 日目	2 日目	内容と役割分担	
オリエンテーション (15分)		<b>講義 I</b> 「働く上で大切なコミュニケーション」 (キャリアコンサルタント資格を持つ 大学職員が担当) ①学校と職場の違い ②挨拶について ③報告・連絡・相談 (ホウレンソウ)について	<b>講義 II</b> 「基本的生活習慣の大切さ」 (看護師資格を持つ大学教員が担当) ①学校と職場の違い ②朝ご飯を食べること ③睡眠時間の確保 ④朝の準備や段取り ⑤身だしなみを整える
講義 I (45分) (アンケート記入含む)	講義 II (45分) (アンケート記入含む)		
休憩 (10分)	休憩 (10分)	<b>マナー講座 I</b> (社会福祉学科の学生が担当) ①挨拶と報告をする時は ②作業中の指示 ③質問をするタイミング	<b>マナー講座 II</b> (社会福祉学科の学生が担当) ④寝る前の過ごし方 ⑤出勤の際に ⑥身だしなみの整え方
マナー講座 I (20分)	マナー講座 II (20分)		
グループワーク (30分) (アンケート記入含む)	グループワーク (30分) (アンケート記入含む)	<b>模擬作業 I</b> 「図書館作業」 (附属図書館職員が担当) ①抜き取り作業 ②返却作業	<b>模擬作業 II</b> 「事務作業(実習日誌作成)」 (支援センター職員が担当) ①ラベル印刷 ②ラベル貼り ③用紙のとり込み
グループワーク (30分) (アンケート記入含む)	グループワーク (30分) (アンケート記入含む)		
昼休憩 (60分)	昼休憩 (60分)	グループを 1 日目と 2 日目で 交代する	
模擬作業 I (90分) (1日目と2日目でグループを入れ替える)	模擬作業 II (90分) (1日目と2日目でグループを入れ替える)		
グループワーク (30分) (アンケート記入含む)	グループワーク (30分) (アンケート記入含む)		
	全体の振り返り (15分) (アンケート記入含む) 修了証書授与		

図 1 プログラムの内容と役割分担

3) プログラム内容：「働くことを知る・学ぶ」をテーマとして、①講義、②マナー講座、③模擬作業を実施(図 1)。それぞれの内容を振り返るため、実施直後にアンケート記入し、それらをもとにグループワークを実施した。プログラム終了後は、当日参加したスタッフで事後ミーティングを実施。

4) 参加者及び支援者の動き：参加者 7 名をグループワークと模擬作業の際に 2 グループに分けて実施。なお、

グループ分けは参加者の個性を配慮した。参加者への直接的な支援者として、学生が「学生サポーター」として、2日間同じペアでプログラム全体を通して参加者が困った時や分からない時のサポート役として配置した。また、サポーター以外の学生は「学生スタッフ」として、実施中の準備や片づけ、模擬作業の際の見守り等を行った。



写真1 講義



写真2 マナー講座



写真3 模擬作業 図書館



写真4 模擬作業 図書館（報・連・相）



写真5 模擬作業 図書館（報・連・相）



写真6 模擬作業 封入作業



写真7 模擬作業 封入作業（報・連・相）



写真8 グループワーク（振り返り）



写真9 サポーターから修了証書授与

5)プログラム実施後:支援センターが参加者の所属校を訪問(事後訪問)し、事後面談を行った。保護者、担任、特別支援教育コーディネーター、相談室教諭等に可能な範囲で同席してもらい、参加者にプログラムの感想等を聞き取った。また、プログラムを通して得られた今後の就労準備に関して、家庭生活や学校生活(学外実習等)で取り組みそうな点について提案。後日、総括としてスタッフ(学生除く)で反省会を実施した。

#### 4. 出前講座

オープン・カレッジの内容を高校授業の2時限分にまとめて、地域の高等学校で実施する取り組みである。本講座に関してはクラス単位等で行うため、障害や障害傾向の有無は問わず必要としえるクラスに対して、「働く」ことをテーマに実施した。

##### 1)実施内容

授業名:出前講座～働くことを知る・学ぶ～

実施日:2019年7月16日(火)2時限分 県立A高校

2019年12月11日(水)2時限分 私立B高校

対象:県立A高校2年生 7名

私立B高校2年生 32名

実践者:

①企画・運営:筆者及び支援センタースタッフ

②参加者へのサポーター及びスタッフ:

県立A高校 美作大学社会福祉学科薬師寺研究室ゼミ生(4年生5名)。

私立B高校 美作大学社会福祉学科薬師寺研究室ゼミ生(3年生4名・4年生5名・ボランティア1名)

③講義の際の講師:筆者

##### 2)プログラム内容(表2・表3)

①講義:職場で働くうえで必要となる知識に関する内容。パワーポイント及び資料を用いる。

「基本的な生活習慣の大切さ」:学校と職場の違いを整理すると共に、朝食の必要性、睡眠時間の確保、朝の準備や段取り、身だしなみについて講義を行った。

「働く上で大切なコミュニケーション」:学校と職場の違いを整理すると共に、挨拶について、報告・連絡・相談(ホウレンソウ)の大切さについての講義を行った。

②マナー講座:講義内容をより具体的な場面で示すため、学生が軽演劇を行う。一つの講義に対して各3つの場面で構成している。一つの場面を見終えた直後に、そのテーマについてワークシートを用いて整理した。

マナー講座①「基本的な生活習慣の大切さ」の講義内容に連動して、テーマは「寝る前の過ごし方」、「出勤前

の準備の大切さ」、「身だしなみの大切さ」の軽演劇を行った。

マナー講座②:「働く上で大切なコミュニケーション」の講義内容に連動して、テーマは、「挨拶と報告をする時のやりとり」、「作業中の指示の受け止め」、「質問をするタイミング」の軽演劇を行った。

表2 県立A高校出前講座スケジュール

時間	内容	備考
14:00~14:05	オリエンテーション 「学校と職場の違い」	
14:05~14:25	マナー講座(軽演劇) 「挨拶と報告をするときは」 「作業中の指示」 「質問をするタイミング」	*場面ごとにワークシートに記入
14:25~14:45	講義② 「働くうえで大切なコミュニケーション」	
14:45~14:55	休憩	
14:55~15:25	作業体験「封入作業」 体験・説明・実演・手順書・たずねる等	指示理解への気づき
15:25~15:40	グループワーク (アンケート記入と共有)	5グループ 支援センターが進行 アンケート内容を共有

表3 私立B高校出前講座スケジュール

時間	内容	備考
9:45~9:50	オリエンテーション	
9:50~10:10	講義① 「学校と職場の違い」 「基本的な生活習慣の大切さ」	生活習慣チェックリストは事前に記入
10:10~10:25	マナー講座(軽演劇)① 「睡眠時間の確保」 「朝の準備や段取り」 「身だしなみを整える」	*場面ごとに質問に記入
10:25~10:35	休憩	
10:35~10:55	講義② 「働くうえで大切なコミュニケーション」	
10:55~11:10	マナー講座(軽演劇)② 「挨拶と報告をするときは」 「作業中の指示」 「質問をするタイミング」	*場面ごとにワークシートに記入
11:10~11:35	グループワーク (アンケート記入と共有)	5グループ 学生2名ずつが入り進行 アンケート内容を共有

③グループワーク:県立A高校では支援センター職員がファシリテーター役となり、2グループに分かれて行った。学生サポーターも加わり、発言に困った時等に支援を行った。内容は、講義やマナー講座での参加者の学びや気づきを取り上げ、参加者同士で共有した。私立B高校では学生がファシリテーター役となり、5グループに分かれて行った。内容は講義や作業体験での参加者の学びや気づきを取り上げ、参加者同士で共有した。



写真10 県立A高校 講義



写真11 県立A高校 マナー講座



写真12 県立A高校 模擬作業(報・連・相)



写真13 県立A高校グループワーク(振り返り)



写真14 私立B高校 当日資料



写真15 私立B高校 マナー講座



写真16 私立B高校 グループワーク（振り返り）



写真17 私立B高校 グループワーク（振り返り）

## 5. 実施結果及びまとめと今後の課題

本年度は、美作大学内で実施する「オープン・カレッジ in 美作大学」と、内容を2時限分にして、高等学校に出向いて行う「出前講座」を行うことができた。

「オープン・カレッジ in 美作大学」は例年男性の参加者が多いが、今年度は全員女性だった。社会に出て困るであろうコミュニケーション等について「講義」、「軽演劇」、「グループワーク」で知識として理解し、「実習」をすることで、実践を通して確認していくという行程は、対象者にとってどれも欠けることなく必要である。参加者の事後面談での振り返りでも、コミュニケーションや基本的な生活習慣の大切さ等を理解でき、実習を通して、自己理解にもつながったようである。ただ、2日間という短い時間でもできることも限りがあるため、この経験を高校の中で有用に活用していくことが必要である。この経験を活かせるよう、高校にどう伝えていくかが今後の課題である。

これまで、「出前講座」は私立B高校のみ実施していたが、今回初めて県立高校からの依頼があり、実施した。県立A高校では、午後からの実施であり、実施時間までのスケジュールや教室の環境等まで配慮することができず、参加者の集中がもたない場面も見受けられた。私立B高校では、昨年の反省からグループワークのグループだけでなく、講義の時の座席を指定する等の配慮を行った。小さいことではあるが、こうした配慮が参加者に大きく影響するものであり、今後も積み重ねていくことが必要である。

なお、いずれも学生サポーターや学生スタッフ等が参加者の最も近くで支援や見守り、ファシリテーター等を行うことが、参加者の積極的で前向きな参加につながっているようだった。また、学生自身も支援が必要な高校生と関わることは、将来支援者となる上で貴重な経験になった。

2018年度から、高等学校の通級指導級が始まった。普通高校における発達障害のある人への教育や支援路支援に関しては多くの課題がある。この取り組みが、少しでも今後の高校教育の中で取り込まれていけることを期待したい。

### Ⅲ. きんちやい みまさかれっじ

#### 1. 実施背景

2014 年度 3 年生のゼミ生がオープン・カレッジを企画し、2015 年度から「学習機会の少ない方を大学に招いて講義を受けてもらう。」「大学の講義で得た知識や経験を基に、地域でいきいきとした生活を送ることにつながってほしい。」という目的としてスタートした。

表4 きんちやい みまさかれっじ 講座

2015 年度	前期：1 日目「文化人類学」（全体講義）「英会話」「音楽」（選択講義） 2 日目「料理」（全体講義） 交流会 後期：1 日目「工作」「悪徳商法対策講座～あきらめない～」 2 日目「科学実験」 交流会
2016 年度	前期：1 日目「パソコン」「マナー講座」 2 日目「栄養学」「護身術」 交流会 後期：1 日目「和菓子作り」「茶道」 2 日目「災害学習（消防署見学）」 交流会
2017 年度	前期：「ストレッチ」「口腔ケア」 後期：「フラダンス」「経済学」 ※本年度より、年 2 日間だけの開催となった
2018 年度	前期：「防災学」「工作」 振り返り 後期：「歴史学（津山）」「ポッチャ」 振り返り

#### 2. 実施内容

2019 年度 4 年生のゼミ生 5 名、3 年生のゼミ生 4 名が企画し、実施した。

##### 1) 実施日及び科目

前期：2019 年 10 月 19 日（土）

オリエンテーション・保健学・声楽・振り返り

①保健衛生学：講師は津山市保健師の村上奈美佳氏。知的障害のある人に分かりやすく基本的な生活習慣についての講義やメニュー選択の演習等。

②声楽：講師は非常勤講師の鈴木雪絵氏。発声練習や楽器を使って歌を歌う等。



写真18 保健学



写真19 声楽

後期：2019年11月23日（土）

オリエンテーション・調理実習・栄養学・振り返り

①調理実習：講師は美作大学食物学科森本恭子氏。メニューはカレーとサラダ。学生サポーターと共に二人分の調理を行った。

②栄養学：講師は美作大学食物学科森本恭子氏のゼミ生3名。「野菜の秘密」という演題で、野菜の栄養についての講義。



写真20 調理実習



写真21 栄養学

## 2) 実施結果及びまとめと今後の課題

学生が主体となって、企画、実施しており、実施までに様々な行程がある。講義内容の検討、講師探しと連絡調整、参加者募集の広報活動、講師との打ち合わせや当日資料のルビふり等、多くの準備をして、当日を迎えている。4年生が後輩につなげていけるよう、引継ぎをしながらの準備となっている。

当日は、多くの参加があった。特に、演習科目だけの、希望者もあった。演習科目は障害が重い人でも参加しやすいことが理由と考える。両日とも参加者と学生で振り返りをしており、講義内容や、今後の希望等も学生が参加者から直接聞き、参加者と学生全員で共有している。参加者の意見を参考にしながら、今後の企画につなげていきたい。

小さい活動ではあるが、岡山県でオープン・カレッジを実施している大学は本学だけである。この活動を大切にして、今後につなげていきたい。

## 参考文献等

- 1) 建部久美子編（2001）「知的障害者の生涯教育の保障－オープン・カレッジの成立と展開」, 明石書店.
- 2) 杉本正・兼松美幸（2010）「実践報告『オープン・カレッジの展開』」, 帝塚山大学心理福祉学部紀要.
- 3) 京俊輔・薬師寺明子（2019）「オープンカレッジに取り組む中国地方の大学間交流」, 障がい者生涯学習支援研究, 第3号.